

第2分科会記録

1 分科会の主題

『信州こどもカフェ』等の子どもの居場所と地域社会の関わり

提案者	北アルプス地域振興局	南澤ルリ子
		寺島 佳代
助言者	大町市社会福祉協議会地域福祉係	高橋 裕子
司会者	八坂小中学校	小河 裕子
記録者	大町市生涯学習課	西山 行信
世話係	大町西小学校	井口 博司

2 提案要旨

- (1) 「子ども食堂や信州こどもカフェ」について知っていること等、参加者に記入してもらう。
- (2) 全国的に言われている子ども食堂について
定義：子どもが一人で行ける無料または低額の食堂
始まり：東京都大田区で八百屋だんだんの一角で2012年に開催された「だんだんワンコイン食堂」が発祥
- (3) 長野県における「信州こどもカフェ」について
定義：食事提供と学習支援、食事提供とその他の機能、学習支援とその他の機能のように複数の機能の提供、尚且つ、月1回以上計画的に開催している県内の子どもの居場所
- (4) 「信州こどもカフェ」関連の県の今までの取り組みについて
 - ・平成28年に「信州こどもカフェ」の愛称決定
 - ・令和6年4月現在で、52市町村218か所で活動
 - ・令和9年末までに77市町村全てに270か所の開設を目指す。
- (5) 地域プラットフォームについて
「信州こどもカフェ」の運営団体：県地域振興局、市町村、社会福祉協議会、民間団体や個人など、多様な地域の主体が連携し、「信州こどもカフェ」を推進するための組織
主な活動内容：研究会の開催、リーフレットの作成・配布等の周知活動、フードドライブ活動など
- (6) 北アルプス地域の信州こどもカフェの紹介
12か所（大町市6、池田町2、松川村1、白馬村1、小谷村2）の団体がある。
大町市のアルピオンこどもの家は、不登校児の平日居場所づくりとしての活動が特徴
- (7) 大町市の信州こどもカフェの紹介
「みあさの森」（美麻地区）「さくらさくらカフェ」（八坂地区）
「アルピオンこどもの家」「このみ子ども食堂」「ほっとスペース」
「こどもカフェ立田屋」（大町地区）
- (8) 地域と小学校区と「信州こどもカフェ」の関係図について
地域に偏りがある。子ども一人でも行ける場所を考えると更なる推進が必要
- (9) 「信州こどもカフェ」運営の課題
 - ・運営資金の確保
 - ・周知広報の人材
 - ・新しく始めたい人開拓



(10) 課題提案

① 夏休み等の長期休暇中の子どもの居場所

※大北地域小中学生の保護者アンケートで長期休暇中の居場所を望む声が多かったので

② 保護者（大人）が求める子どもの居場所

※今ある子どもの居場所を含めて「あったら良いな、こんな子どもの居場所やイベント」を考えて欲しいので

③ 「信州こどもカフェ」を利用するには

※どのようにしたら抵抗なく大勢の方が利用できるか、どのような周知の仕方をして利用してもらえるか、利用する側の立場から考えて欲しいので



3 協議の内容

※A～Eまでの5グループに分かれ、自己紹介をし、まとめ役を決め、3つの提案について各自の考えを記入し、用紙にまとめ役が分類しながら貼って情報交換を行った。

(1) 夏休み等の長期休暇中の子どもの居場所について

① 夏休み子どもたちはどんなところにいますか。

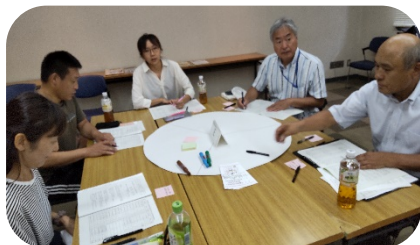
・自宅 ・友だちの家 ・親戚の家 ・祖父母の家 ・部活動 ・児童クラブ ・図書館
・保育園 ・サークル ・公民館 ・学校（自習教室） ・キッズウィル ・キャンプ
※自宅、友だちの家をあげた人が多かった。

② 長期休暇で困ったことは何ですか。

・昼食、食事 ・生活のリズムの乱れ ・TV、ゲームばかりの生活 ・希望登園の送迎
・親子の時間が合わない ・病気、健康面 ・預ける場所がない ・行く所がない
・一人での生活 ・宿題、研究
※・昼食、食事・生活のリズムの乱れ・TV、ゲームばかりの生活 をあげる人が多かった。

(2) 保護者（大人）が求める子どもの居場所について

① どんな場所があったらよいか。



・クラブ等指導者・大人が常に一緒にいる環境
・学校の開放 ・広場、公園
・涼しくて集える場所
・冷房が効いている安全な場所

② どんなイベントがあったらよいか。

・安全面での心配のないイベント ・地域でのイベント（納涼大会、魚つかみ大会等）
・アクティビティ ・子どもの興味にあった、行きたいと思えるイベント
・キャンプ ・体験活動 ・お楽しみ会 ・クラブ活動 ・スポーツ大会
・プール開放 ・学習をみてもらえるもの ・化石発掘ツアー ・別世代との交流

(3) 「信州子どもカフェ」(子ども食堂)を利用するには
せっかく作った居場所に子ども達に足を運んでもらうにはどういう工夫をしたらよいか。

- ・保護者の理解
- ・親だけで行って見て、その後子どもをつれて行く。
- ・親同士の繋がりを利用、PTA、育成会との連携
- ・「すぐーる」での配信
- ・パンフレットを活用し、周知
- ・その場がどんな場所でどんなことをしているかをしっかり知らせしてほしい。
- ・体験などで周知
- ・カフェを知らないのでアピールしていく。
- ・学校内でもボード等で知らせて行きやすいようにする。
- ・情報発信
- ・子ども・親が利用したい時に利用できるカフェ(不定期は避けて欲しい)
- ・市役所旧食堂を公共のカフェに
- ・ランドセル紹介の企業とコラボ、ランドセル展示と合同イベント企画
- ・児童クラブと同じ場所で開催、家と学校間にあると利用し易い。
- ・立地が近く、知った場所 →学校、公民館
- ・どの飲食店でも利用できる子ども食堂
- ・地域の大人も参加しやすい活動、イベント(手伝いやすい)
- ・地域での声かけ、PRが定期開催
- ・公共の施設の開放でカフェを長期の休みに開く。
- ・子どもの意見を聞く(やりたいことなど)
- ・色々な遊びができる場所
- ・楽しい場所、歩いていける場所
- ・地域やお年寄りの力を借りる。
- ・利用している子どもから友だちを誘ってもらう。
- ・年代の近い人(高校生)のボランティア活動
- ・食事前にお楽しみ会や勉強会の時間を設ける。
- ・利用した分だけボランティアする。
- ・食事メニューの提示、一緒に調理
- ・多様な参加形態を認める。
- ・「食堂」でなくてもよいのでは? ←食べることに抵抗のある子もいるので



(4) 色々な情報を得て、変わった人、さらに深められた人がいると思うので、今の感想を最初のピンクの紙の裏に記入

(5) グループの中で感想を発表し合って終わる。

- ・子ども食堂について初めて主旨や活動を学び、理解することができた。
- ・子ども食堂の大切さや課題が分かった。
- ・様々な工夫がされていると思った。
- ・広報活動が大切。子ども食堂の意義等の周知の工夫が必要。
- ・多くの協力者の方に支えられていると感じた。
- ・活動を支える人とお金が必要と感じた。
- ・学校・PTA・自治会の話聞きながら勉強したい。
- ・もう少し調べて行ってみたい。
- ・自分でできることを考えたい。 等

4 助言者のまとめ

地域福祉係、社会福祉協議会で集いの場、居場所づくりをしている。皆さんのお手伝い、場づくりをしたい。社福祉協議会では、障害者、高齢者の方への支援を重点として活動しているが、昨年度より子育て支援にも力を入れて活動している。

今日は色々なアイデアがこの分科会で出され勉強になった。今大町市では6か所信州こどもカフェがあるが、内容はまちまちである。

子どもの居場所づくり、いつでも来ていいというチラシを作ったり、配ったりということをして「このみ食堂」と協力して行った。PRをしていただくと、やっている人のモチベーションがあがってくる。

「ほっとスペース」を第2・4土曜日行っているが、3年目を迎えた。室内での物づくり教室、来る人が増えてきた。

大新田の公民館では、月1日カレーの日とし、去年の夏からカレーを作り方をよびかけている。子どもは来ないのに…。おばさん達が集まっている。子ども達は習い事等で来る子が少ないが、地域の方々が一緒に食べに来て広めていくことが大切。PRが大切。SNSなどを含め、持ち帰り、PTAの親が広めていくことが大切。

子ども食堂で活動しているシニアは大勢いる。子ども達に来て欲しいが、来なくても、みんななどとも元気。集まることが大切。

先々週、上一食堂へおじゃました。今日参加くださっているKさんに一言お願いしたい。

「地域として初めて行った。県からの予算でなく、ある方の寄付でできたというのには驚いた。やってみて、PRが一番大切だと思った。参加者を多く受け入れられる持続可能なものになりたい。親子に来てもらうのが目標」(Kさん)

社会福祉協議会では、色々な備品の貸し出しを行っている。子ども食堂へ来た時、遊びや勉強など、特典がついてくるといい。資料のような備品があるので参考にしてほしい。

子ども食堂の定義は、支援型と交流型(イベント)がある。両方を繋いでいきたい。

こういうことをしたいと思いついたら協力してやっていきたい。

食材をどうするかについてであるが、フードドライブなどやっている。米不足だが、寄付してもらった食材があれば出すという支援を行っている。

地区でやっていきたいことがあれば、相談してもらいたい。「お気軽にお申し込みください」を子ども食堂の時お配りしている。

社会福祉協議会に言っていただければ、繋がりをつけたい。

「こどもまつり」を昨年度から福祉センターでやっている。社会福祉協議会だけではできないので、色々な人に協力してもらっている。チラシも学校の方へ配布すると朝から200人位並んでくれる。大勢のボランティアの力を借りてやっている。わたあめの機械を使ってカラーわたあめを作った。にこにこ喜んでいただくことができたので、使ってもらえたらと思う。いい場所にしていきたい。

